



雪づくり開始

12月13日

日本最南端 五ヶ瀬スキー場

オープンへ急ピッチ

日本最南端のスキー場、五ヶ瀬町の五ヶ瀬ハイランドスキー場でゲレンデの下地となる雪づくりが18日に始まった。今シーズンの営業は12月13日から。スタッフはオープンに向け、交代しながら24時間態勢で作業を続ける。

20日のゲレンデでは造雪機が稼働。ホース先端からは細かい氷の粒が放物線を描いて噴き出し、初、中級者用コースに高さ3メートルほどの雪の山ができていた。朝の最低気温が氷

点下2度を下回った前日の19日から20日朝までは降雪機も登場。水を霧状に噴射させて人工雪を降らせ、雪づくりのピッチを上げた。寒さも本番となるころからは、造雪機と降雪機を併用。1日に最大約150トンのペースで雪をつくる。ゲレン

デには高さ4、5メートルの雪の山をいくつもつくった上で、オープン間近にはそれを圧雪車でゲレンデの上に広げる予定。昨年は暖冬の影響もあり、来場者は2万5715人。入場者を増やそうと、今シーズンはレストハウスのレス

トランのメニューにも工夫。同町産の茶葉を用いた抹茶ロールケーキ、洋なしケーキ、グリンチキンピザ、ぜんざいなど新しいメニューを提供する。

今シーズンは来年3月1日までの営業。期間中は無休で、昨年より1万人多い3万5千人の来場者を目指す。同スキー場の川崎一仁係長は「一人でも多くの人に来ていただきたい」と来場を呼び掛けている。